

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3390200503		
法人名	富田ケアセンター有限公司		
事業所名	グループホーム富田の里(白桃)		
所在地	倉敷市玉島道口2752-1		
自己評価作成日	平成25年6月13日	評価結果市町村受理日	

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

グループホーム富田の里も開所して3年が経過しました。現在は入居者様との関係も良好で入居者様の表情をみながらその日の過ごし方を考えることもできるようになってきたと思っています。そんなグループホーム富田の里が今、力を入れている点は入居者様とご家族のつながりです。入所の施設の場合はご家族と入居者の接点が少なくなることがよくみられますが毎月のイベントの開催や個別活動をする際にもご家族への連絡を行い参加を促したり、またご家族の方に先生役になって頂きクラフトを行う等、来所して頂ける機会を設けることによりご家族と入居者様・ご家族と職員の関係をより深いものにする事で入居者様にとって過ごしやすいたまた楽しいと感じて頂けるグループホームになるよう取り組んでいます。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaisokensaku.in/33/index.php?action=kouhvu_detail_2014_022_kani=true&JivvosvoCd=3390200503-00&PrefCd=33&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 ハートバード		
所在地	岡山県倉敷市阿知1-7-2-803 倉敷市ベンチャーオフィス7号室		
訪問調査日	平成25年6月25日		

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「利用者を第一に、その人らしく生活できるように」という事業所の理念が、職員に浸透し、利用者もゆったりと暮らしている。両ユニットの真ん中に位置するスタッフルームの窓ガラスが取り外され、利用者からも職員からも気軽に声がかかれ、すぐに職員が利用者支援に回れることからもうかがえる。暮らしにメリハリを持たせようと、様々な行事や活動が用意されている。その中で、家族が講師役となるエコバッグや梅干し作り、家族にも車を出してもらってのドライブ等、家族の協力を得て実現したものが増えた。今までは利用者への対応と職員の技術向上が一番の課題であったが、開設から3年が経ち、家族との交流を深めることにも、目を向けられるようになった。地域の行事などにも利用者と積極的に参加し、家族からは外に出る回数が増えたと喜ばれている。管理者も職員も現状に満足することなく、常により良い方法を見出し、実践につなげている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらい 3. 家族の1/3くらい 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	施設理念をスタッフルームに掲示し日々再確認している。	「利用者が自分らしく生活出来る事」「利用者を第一に」という事業所独自の理念がある。職員の言動が理念に沿っていない場合は、手本となるような行動を管理者が見せ、繰り返して理念を説明する。それが職員にも浸透している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の方々に参加して頂ける夏祭りの開催、近所を散歩する際の挨拶等を行っている。また委員会活動として地域の清掃に参加する等地域とのつながりを大切にしている。	事業所の夏祭りには地域住民が500名も来訪した。環境委員が月2回の地域の清掃活動に参加して地元とのつながりを保っている。代表らが文化センターで腰痛体操の講演をする等、積極的に情報発信もしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域運営推進会議ではGHの現状報告だけではなく様々なご要望・ご質問にも応じられるよう運営しておりその都度必要に応じ対応させて頂いている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2カ月に1度運営推進会議を行いGHでの活動内容の報告を行っています。	運営推進会議の参加者はほぼ固定している。家族にも呼びかけているが、参加はごくまれである。長崎のグループホームの火事の後に消防署の査察があり、その結果報告により参加者に安心してもらった。合わせて災害時の協力をお願いした。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議には民生委員・地域包括支援センター・介護保険課の方に参加頂いており地域の方からのご質問ご要望を伺う場として活用しお互いに意見交換を行う事で協力関係が構築できるよう取り組んでいる。	地域包括支援センターからは空きの問い合わせや利用者の紹介等があり、従来からの関係を継続している。市は運営推進会議に参加している。市から職員体制の指摘を受けたのがきっかけとなり、事業所内の体制を見直し、改善できた。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束については重要事項説明書に明記してあることを全職員に伝えており、重要事項説明書もいつでも閲覧できる場所においている。また、朝礼等でGHにおける身体拘束についての話を定期的に行っている。	身体拘束は見受けられない。管理者は「本人の意思どおりに動けないのは全て身体拘束」として、朝礼で具体的な拘束事例を説明し、職員も利用者の意思を尊重して支援している。ユニットの出入口は鍵がかかっているが、利用者の要望があれば、すぐに開けている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止に関する資料を事業所内にいつでも閲覧できる場所においている。また職員間で話し合いの場を設けている。		

グループホーム富田の里

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	介護保険制度については機会があるたびに朝礼や部署会議等で理解できるよう話し合っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際にはひとつひとつの項目につき十分な説明を行い納得頂いた上で署名していただいている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族が意見を述べやすいように来所の機会(行事・イベント等)を定期的に設けその場で意見や要望を発言しやすい状況を提供している。また運営推進会議でだされた内容もGH運営に反映できるよう努めている。	エコバッグ作り、梅干し作りなど家族が講師役となる活動や家族も一緒にドライブなど、家族とのつながりに力を入れている。意見をメールで送る家族もいる。「職員の名前がわからない」という意見に対し、フロアに職員の写真と名前を掲示した。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	GH部署会議を管理者・主任は必ず参加し職員の意見や要望、質問を反映させている。また会議録を作成し職員全体に報告ができる体制を整えている。	職員は疑問点や意見を気軽に管理者や上長に伝えている。職員のアイデアで新しい行事や活動を盛り込んだり、「職員間で知識などの差があり不安を感じる」という声を受けて、定期的な勉強会を始めた。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勤務態度・個人評価シートが賞与に反映されている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者は必要に応じ相談を受けたり勉強会を開催し働きながらスキルアップができるよう努めている。また法人内外の研修も推奨している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	施設外研修や広報活動の中で外部機関との交流や情報交換を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前面談にてご本人から生活歴を伺い入所前から安心して入所して頂けるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前面談の際ご家族本人から時間をかけてお話することで生活歴を確認するだけでなく信頼関係を構築できるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人・ご家族の要望を確認した後にケアプランの作成を行い契約時にケアプランの説明を本人・ご家族に行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人と一緒に職員が日常生活を過ごすという考えで日々生活している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様に講師役になって頂きエコバック作りを行う等ご家族が参加しやすいイベントを催すことでご本人・ご家族のつながりを大切にしています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご本人が希望される理容店で職員と一緒に散髪に行くなど可能な限りご本人にとっての馴染みの場所が縁遠くならないように気を配っています。	馴染みの理容室への送迎をしたり、自宅付近や馴染みの場所をドライブの行先に行っている。週末に自宅に帰る利用者もいる。一番の馴染みは家族であり、家族の来訪につながる活動や行事を増やした。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご利用者の性格や人間関係を把握しひとりひとりがその人らしく生活できるよう気を配っている。		

グループホーム富田の里

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後もご本人・ご家族の要望があった場合には面会や相談・支援を行う。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	生活歴や普段の会話の中から本人の望まれていることを知り、ドライブ・散歩・クラフト・行事等行っている。	職員は利用者一人ひとりの誕生日や家族の名前、生活歴を覚え、思いや意向をきめ細かく把握している。意向にどうしたら応えられるかを検討し、例えば「田んぼ仕事がしたい」という人には、プランターで稲を育ててもらい、その思いを叶えた。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	事前面談にてご本人ご家族、担当ケアマネジャーから情報を伺いまた入所後のご本人とのかかわりの中で把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日入居者と一緒に生活する中でその人その人の生活パターンを職員が理解し、申し送りや記録を利用し情報を共有している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	職員間で気付きがでた際にはサービス担当者会議を開催し必要な介護計画を作成することで本人の満足度を高めている。またご家族にも報告しご家族の意見も伺うよう心掛けている。	利用者別に家族とのやりとりを記録し、また家族の来訪を促し、気軽に話し合えるようにし、家族の意見が介護計画に反映できるように取り組んだ。ただ記録書式が複数あったり、記録の欠落が何カ所があった。	書式の統一を図ると共に、記録の付け忘れなどを少なくするため、確認の強化を期待したい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	記録を活用し日々の体調や生活の変化に気を配りながらケアを行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居者やご家族が望まれていることに気を配り、入居者・ご家族・職員で話し合った後ニーズに添えるようお手伝いをさせて頂いている。		

グループホーム富田の里

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	公園を利用しての散歩やボランティア活動による書道教室や音楽療法に参加し地域の方々との交流を積極的に行っています。現在では倉敷いきいきポイント制度によるボランティアの方にも来ていただいています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人・ご家族・主治医としっかり話し合いご本人のご要望に沿った対応を行う。	利用者が希望すれば、従来のかかりつけ医を継続し、受診はほぼ職員が付き添っている。職員は医師に本人や家族の要望を伝えと共に、家族には受診内容を伝えている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護ステーションと委託契約を交わしており看護師は毎週バイタルの確認や状態の確認を行う。また介護職が入居者の状態の変化に気づいた際必要に応じ看護職に報告相談を行っています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入居者が入院した際には面会に行き状況確認を担当看護師やご家族から行い退院にあたって必要な準備をカンファレンスを通じ行う。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合における看取り指針に従って家族に説明を行い随時体調の管理を行う。常にご家族・主治医・職員が情報を共有しながら最後までご本人らしく生活できるよう支援する。	看取りはまだないが、それに近い状態まで暮らしていた利用者がいて、家族や医師との連絡を密接に取った。重度化の方針を文書化し、家族に説明し、同意書も受け取っている。協力医や訪問看護とも連携し、看取りが可能な体制となっている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事故発生時の対応について研修をおこなっている。またスタッフルームにマニュアルを常備しいつでも閲覧できるようにしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回以上の避難訓練を実施、夜間を想定した避難訓練やシューターの使い方の実践等行っている。また運営推進会議にて近隣の方々への協力もお願いしている。	災害時の初動に必要となる、消火器の場所、避難経路や通報方法などを職員は熟知している。2階の非常脱出用シューターを実際に職員が試し、利用者の使用は難しいと判断した。消防署の特別査察があったが、問題点は指摘されなかった。	備蓄食料の準備や家具の倒壊防止等、火災以外の地震や水害に対する対策を期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者の個性を尊重し、その人その人に合わせた接し方を心掛けプライバシーに配慮した対応を心掛けている。	全体的には、職員は利用者と目線を合わせ、丁寧に優しい口調で接し、トイレ誘導等もさりげない。「～ませんか？」と利用者の意思を尊重している。しかし、たまに「～しないと、後で困るよ」という言い方や、あからさまなトイレの声かけがあった。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者のニーズを尊重し、自己決定ができるように普段からコミュニケーションを図り入居者が何を求め望んでいるかを職員が理解できる関係を目指している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	受容・傾聴の姿勢で入居者に対応しご本人の意向に沿った日常を提供できるよう努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その日に着る服は本人に選んで頂いている。また自己決定が難しい方にも職員の声掛けにより僅かでも本人の意思が反映されるよう努めている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	事前訪問や日々の生活の中で食事の好みについて把握している。また食事の片づけや下ごしらえ等できる事は職員と一緒におこなえる環境作りに努めている。	職員も利用者と一緒にテーブルを囲み、みんなで同じ食事を取りながら談笑し、和やかな雰囲気である。利用者と一緒に準備から片付けまで行う、月2回の「調理の日」を継続し、新しくランチバイキングも始め、自由に選べる楽しみを提供している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分については1日1000cc以上摂取できるよう声掛けを行っており水分摂取量も記録している。栄養バランスについては管理栄養士の提供して下さるメニューにてバランスのとれた食事となっている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを行っており本人の残存能力を少しでも活用していただけるよう声掛け・介助を行っている。また訪問歯科の先生には定期的に往診に来て頂き食事形態等の指導を頂いている。		

グループホーム富田の里

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	ひとりひとりの排者泄パターンを把握しながら職員の声掛け・誘導を行っている。また、入居者様によってはリハビリパンツから普通の下着になる等入居者様の状況に合わせた対応を行っている。	排泄パターンを記録し、トイレ誘導に活用している。筋力の弱った人にはリハビリテーション等を行い、日中は原則として、トイレで排泄できるよう支援している。リハビリパンツから布パンツに変更できた人もいる。トイレはきれいに掃除され、すっきりとしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	管理栄養士の作成したメニューにより便秘に考慮した食物が摂取出来ている。また毎日の体操・水分摂取等により自然排便を心掛けている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	週2回以上の入浴を行っている。入居者の希望により決められた入浴日以外の入浴にも対応している。また、入居者の状態の良いときに入浴ができるよう配慮している。	入浴は1日3名程度にし、ゆったりと入れるようにしている。利用者の希望や状態により、午前でも午後でも入れる。職員と1対1で話せるのを、楽しみにしている人も多い。タオルで細かに体を隠すなど、羞恥心への配慮を徹底している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間に十分休んでいただけるよう、日中に入居者の希望を考慮した散歩・体操・レク等の声掛けを行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬が処方された際、薬局で一緒に渡される薬の説明書を職員が確認し把握している。また服薬後の入居者様子も記録に残し主治医・ご家族に連絡している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個人の自由な時間を尊重しつつ、家事の手伝いやクラフト・散歩・畑仕事等入居者のその日の状態を確認しながら職員と一緒にやっている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天候の良い日には職員から外出の声掛けを行っている。その際入居者から具体的な外出の希望がでた際には希望に沿った外出ができるよう支援している。	近場の海岸、山、公園、店などへのドライブを増やし、そこでソフトクリームを食べたり、釣りをしたりして楽しめるよう、工夫している。家族からも外出が増えたという声が聞かれる。また利用者の希望でベランダでの米作りを始め、外の空気に触れる機会もさらに増やしている。	

グループホーム富田の里

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ドライブの際には個人のお金を持参し途中食べ物や飲み物を購入したり、個人的に買いたいものがある場合にはご家族に確認後、職員と一緒に買い物にいき予算に応じたものを購入して頂いている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	入居者から電話を使って知人・ご家族に連絡を取りたいとの申し出があった場合には施設の電話を使っていただき連絡を取り合っています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	緑のカーテンをしたり時期にあった植物の栽培をベランダにて行っております。また季節にあった花等をフロアに飾る等季節感を感じて頂けるよう取り組んでいます。	ベランダにあるゴーヤの緑のカーテンから、心地良い風が通っている。リビングの掲示物は控えめにし、すっきりとしている。換気扇や浴室もきれいに清掃できている。片側のユニットで、午前中、誰も見ていないテレビが大きめの音で付けっ放しになっていた。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファの座る位置やダイニングの席は入居者の状態に合わせてその日が楽しめるように気を配っている。またベランダ付近に椅子をひとつ置くことでおひとりで過ごしたい方が自分の時間を過ごせるよう配慮している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所時には本人の生活スタイルにあった道具を持ち込んで頂きご本人にとって違和感なく生活できるよう配慮している。	クリスマス会の紙人形劇で職員が作った、各利用者の似顔絵を、居室のドアに飾っている。本人の希望等により、家具の配置を変えたり、本人の写真を壁に貼ったりしている。多くはきれいに清掃されているが、一部の部屋で床の埃が目立った。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	日々の生活の中でそれぞれのADLや性格等を考慮し洗濯・掃除・配膳が自分のペースでできるよう配慮している。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3390200503		
法人名	富田ケアセンター有限公司		
事業所名	グループホーム富田の里(黄桃)		
所在地	倉敷市玉島道口2752-1		
自己評価作成日	平成25年6月13日	評価結果市町村受理日	

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

グループホーム富田の里も開所して3年が経過しました。現在は入居者様との関係も良好で入居者様の表情をみながらその日の過ごし方を考えることもできるようになってきたと思っています。そんなグループホーム富田の里が今、力を入れている点は入居者様とご家族のつながりです。入所の施設の場合はご家族と入居者の接点が少なくなることがよくみられますが毎月のイベントの開催や個別活動をする際にもご家族への連絡を行い参加を促したり、またご家族の方に先生役になって頂きクラフトを行う等、来所して頂ける機会を設けることによりご家族と入居者様・ご家族と職員の関係をより深いものにする事で入居者様にとって過ごしやすいた楽しいと感じて頂けるグループホームになるよう取り組んでいます。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.jp/33/index.php?action=kouhvu_detail_2014_022_kani=true&JigvosyoCd=3390200503-00&PrefCd=33&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社ハートバード		
所在地	岡山県倉敷市阿知1-7-2-803 倉敷市くらしきベンチャーオフィス7号室		
訪問調査日			

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践に上げている	施設理念をスタッフルームに掲示し日々再確認している。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の方々に参加して頂ける夏祭りの開催、近所を散歩する際の挨拶等を行っている。また委員会活動の中で地域の清掃活動にも参加する等、地域のつながりを大切にしている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議ではGHの現状報告だけでなく、様々なご要望・ご質問にも応じられるよう運営しており、その都度必要に応じ対応させて頂いている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、その意見サービスを向上に活かしている	2カ月に1度運営推進会議を行いGHでの活動内容の報告を行っています。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議には、市町村担当者の方も参加していただき、日頃から取組みを報告している。また、必要に応じ、電話連絡等も行っている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束については、重要事項説明書に明記してあることを職員に伝えており、重要事項説明書をいつでも閲覧出来る場所に置いている。また、朝礼等dえGHIにおける身体拘束についての話を定期的に行っている。		

グループホーム富田の里

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止に関する資料をいつでも閲覧できるように、事業所内に置いている。また、職員間で話し合いの場を設けている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	介護保険制度や日常生活自立支援事業、成年後見制度について、機会があるたびに朝礼や部署会議等で理解できるよう話し合っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際にはひとつひとつの項目につき十分な説明を行い、納得頂いた上で署名していただいている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご利用者一人一人に担当職員を配置し、きめ細かい連絡をさせて頂く事でご利用者・ご家族の意見を反映したGH運営を行っている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に一度は、部署会議を行い、意見交換の場を設けている。また、日常会話の中、意見交換をしている。会議等でも意見交換を行い参加出来なかった職員にも情報が伝わるよう議事録を作成している。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員一人ひとりに、レクやクラフト行事の担当を担ってもらうことで、やりがいのある場所づくりに努めている。また、年2回個人評価シートを利用し、より一層の向上を促す機会を設けている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者は必要に応じ相談を受けたり勉強会を開催し、働きながらスキルアップができるよう努めている。また、法人内外の研修も推奨している。		

グループホーム富田の里

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	施設外研修や広報活動の中で、外部機関との交流や情報交換を行っている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	日々の生活の中で意見交換を行い、安心して生活ができるように環境を整えている。また、アセスメント情報を参考に入居者様が安心して過ごせるようかかわりを多く持っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前面談の際、ご家族と時間をかけてお話することで生活歴を確認するだけでなく信頼関係が構築できるよう心掛けている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人や家族の要望を聞きできる限りの援助を行う。出来ないことについてはご家族と十分に話をして代替を提供している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人と一緒に職員が日常生活を過ごすという考えで日々生活している。自分でできることは自力で行っていただける環境づくりもしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族の意見は、普段からこまめに連絡を行うことで家族の絆が少しでも継続できるよう配慮している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ドライブや外出する時は、日常生活における会話の中からご本人が望まれる場所とし昔を感じられるよう配慮している。		

グループホーム富田の里

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日頃より利用者様同士が話しが出来るように環境を整えている。また、入居者同士だけでのコミュニケーションが困難な場合には、職員が間に入るようにしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	夏祭りや合同行事等の案内を終了後もニーズに合わせて行っている。また、家族から相談があった場合は、丁寧に対応し、支援に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日頃からコミュニケーションをはかり、本人らしさが維持できるよう努めている。また家族等の思いをお聞きし、日頃から希望、意向の把握に努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	事前面談にてご本人・ご家族・担当ケアマネジャーから情報を伺い、また、入所後のご本人とのかかわりの中で把握努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	アセスメントで得た情報を基に、普段の生活の中でご本人の生活リズムやADLの状況を職員間で情報共有を行い、把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご利用者に対し担当職員を配置し、介護職・看護職・ご家族・主治医がそれぞれ連携を取りながら意見やアイデアを聞ける場を設け、ご利用者の望まれる介護計画を作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	食事量・水分量・排泄等身体状況やご利用者の言動等記録し、常に担当職員を中心に必要に応じ話し合いの場を設けている。		

グループホーム富田の里

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時、その時のニーズに対してご本人・ご家族・介護職員また必要に応じ主治医と速やかに話し合いの場を設けご本人のニーズに添えるようお手伝いさせていただいている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	公園を利用した散歩やボランティア活動による書道教室や音楽療法に参加し、地域の方々との交流を積極的に行っています。現在では倉敷いきいきポイント制度によるボランティアの方にも来ていただいています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	定期受診の支援を行い、突発的な状況については訪問看護等とも連絡を密にとり指示を仰ぐ。また家族との連絡をとり対応している。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回の訪問看護を利用し、その場で連携を図っている。また突発的・事故・症状については訪看に報告し指示を仰いでいる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入居者が入院した際には面会に行くようにしている。状態の確認を確認を担当看護師やご家族から行い、退院にあたって必要な準備をカンファレンスを通じ行うようにしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合における看取り指針に従って家族に説明を行い、随時体調の管理を行う。常にご家族・主治医・職員が情報を共有しながら最後までご本人らしく生活できるよう支援する。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事故発生時の対応について研修をおこなっている。またスタッフルームにマニュアルを常備し、いつでも閲覧できるようにしている。		

グループホーム富田の里

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回以上の避難訓練を実施、消防署の方にも協力頂き 소화器の使い方、当施設における安全な避難経路についての説明、シューターの使い方の実践等を行っている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	日々の生活の中で入居者の様子を観察し、今何が必要なのか考え日々の生活の中で感じたことを気づきとして対応している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の生活の中で利用者一人一人が何を求めているのか気づきノートに記載して、各スタッフがそのノートを共有し自己決定していただくよう支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	受容・傾聴の姿勢で入居者に対応し、ご本人の意向に沿った日常を提供できるよう努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その日に着る服は本人に選んで頂いている。また自己決定が難しい方にも職員の声掛けにより僅かでも本人の意思が反映されるよう努めている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入所者個々のペースに合わせ職員が間に入り食事の時間が楽しくなるよう努めている。また後片付け・準備においてもその人にあった事を提供している。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分については1日1000cc以上摂取できるよう声掛けを行っており水分摂取量も記録している。栄養バランスについては管理栄養士の提供して下さるメニューにてバランスのとれた食事となっている。		

グループホーム富田の里

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを行っており本人の残存能力を少しでも活用していただける声掛け・介助を行っている。また訪問歯科の先生には定期的に往診し来て頂き食事形態等の指導を頂いている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	入所者個々の排泄パターンに合わせてのトイレ誘導やリハビリ・パット使用をおこなっている。また少しでも自立に近づけるよう生活リハビリを取り入れている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日少しずつでも運動を取り入れたり牛乳や食物繊維を含んだものを食して頂き便秘を予防している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	本人・家族に相談し利用者個々にあった習慣や好みに合わせて実施している。また体調を考慮しシャワー浴・普通浴にて対応している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間に十分休んでいただけるよう、日中に入居者の希望を考慮した散歩・体操・レク等の声掛けを行っている。また室内の温度設定にも気を配っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬が処方された際、薬局で一緒に渡される薬の説明書を職員が確認し把握している。また服薬後の入居者の様子も記録に残し主治医・ご家族に連絡している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居者のADLや人間性を考慮しその人にあった家事やレクリエーションを行っている。		

グループホーム富田の里

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天候の良い日には職員から外出の声掛けを行っている。その際入居者から具体的な外出の希望がでた際には希望に沿った外出ができるよう支援している。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ドライブの際には個人のお金を持参し途中食べ物や飲み物を購入したり、個人的に買いたいものがある場合にはご家族に確認後、職員と一緒に買い物に行き予算に応じたもの購入して頂いている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	施設の電話はいつでも使用できる。ご本人から希望があった際には随時対応させて頂いている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	緑のカーテンや窓を解放するなど居心地の良い空間作りを提供している。ホール内では利用者が自由に行動できるよう十分な広さをとっている。いつでも外の景色や季節感がわかるようベランダを活用しお茶を飲んだり、プランター栽培を採り入れている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファの座る位置やダイニングの席は入居者の状態に合わせてその日が楽しめるように気を配っている。日向ぼっこが好きな入居者は一人で陽にあたる空間を提供している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族や本人の意向を聞き好みや馴染みの物を生活空間に持ち込んでいる。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	日々の生活の中でそれぞれのADLや性格等を考慮し洗濯・掃除・配膳が自分のペースでできるよう配慮している。		